



成 長 の 姿

— 現在小学校三年生 —

堀 合 文 子

前号に続き成長の姿をみてみよう。

卒業する時は皆“よい子”になって、小学校へ送るのがおしくな

るのは誰もが思うことで、いくら問題でもまた困る子でも一応年令

もくるのか、そう目立たなくまあまあよい子として、ある程度なおりたり、問題が解決して卒業していくものである。

卒業後数年、あの子どもはどんなか、と心配するのも親心である

う。

小学校の先生の雑談の時も今までいつも話題になる人で、私の方から提出する人としても、まず上ってくる人である。

幼稚園時代は、

能力はあるが、生活態度がよくなく、友だちと融和できず社会性に欠けている。具体的に言うと、暴力をふるったり何もしない人に

Aさんからくつてかかつたり、ゆきすりにボカンボカンとぶつたりしてゆき、友だちの口からは常にAさんの名前ばかり聞き、その現場はなかなかつかめなかつた。双方の事情を聞いたり、現場をつかんでと一日中かかりきりで尾行したり、叱ったり、おだてたり種々手をかけて努力してみたが、その時はにこにこし、悪そうな顔もし理解してくれたらしいがもうそれが終り私が右をむくともう次に事件をおこして、叱られた同じ事件をくりかえしている状態でこちら

× × ×

× × ×

○生活的に問題のあつた人

Aさんの場合

幼稚園時代にすっかり短所なり欠点を教育できなかつたことを一応おわびして話をはじめよう。

の努力がちつとも実を結ばなかつた、というわけだつた。

自分のわがままから、また自分の欲求不満から、友だちとの衝突

はこの年令に多いことであるので、別に特殊なことではないが、能
力もあり知能も普通であるのに、ちつとも自制できず、年長になつ
ても一向に好くならなかつた。

Aさんの一つの特徴として自家中毒といふ持病があつた。その病
気がそろそろおこってきた頃は特に精神もいらいらするのかひどく
なつて暴力はゆだんならなかつた。

母親にも幼稚園の生活状態をお話しあつたことがあつたが、

○家庭が複雑で両親と子どもの生活でなく祖父母、両親、姉一
人、叔父叔母数人と住んでる大家族である。で、その叔父叔母た
ちがAさんをおもちゃにしてからかう。祖父たちもかわいがり過ぎ
て結局からかうことになる。これらのために幼稚園へくるとそのう
っぷんぱらしとなるのではないか。

○一つは自家中毒のおこりはじめは体の具合で精神がいらいらする
のではないか。

結局この事柄で家庭でも努力することを約してはくれたが、母親
としてはあまり困るということでもなくその後も協力してもいなそ
うだつた。

(Aさんの環境、七月生れ。兄弟は姉一人。父の職業は会社員。住

宅環境も普通。知能は普通)

小学校からは、

幼稚園の頃は、母親の態度はどうだつたか、協力的態度をしめし
てくれたか。(これについては前述したとおりであつた)。

あるとき、店の品物をぬすんだことがある。そのときの母親の態
度も、家の子がそんなことをしましたでしようかとけらけら笑つて
いる仕事で、子ども自身も言われても、にこっと笑つて素直そうに
みえるがすぐそのあとで悪さをしている。

自家中毒があるのでそのせいにしている。

確かにその為もあるがもう少し協力的であつてほしい。学習も特
別悪くはないがよい方ではない。おちついて学習をやろうとしない
からいけないのだ。

○能力的に問題のあつた人

次にTさんの場合

この人は幼稚園側としては、幼稚園時代、人はごくよく、かわい
らしい人だが、能力的に弱かったから、学習の方は皆についてゆけ
るかどうか案じていた。現在の学習面はいかがか。

○小学校から、

まあよくはないが一しょうけんめいやつている。人もよく、悪い
ことをしても素直でかわいい。(Tさんの環境、六月生れ、兄弟は姉

一人。父は会社員、自宅環境も普通)

以上幼稚園からの提案者は二人とも幼稚園時代の観察との差異はそうなかった。持っている性格とは言うものの、やはり母親の協力さえ加われば、ある程度の進歩はあるが、大体問題とする点は変わらないことがわかったようだ。

男子が何かと問題になるが、女子もないこともない。がたいしたこともなかつたが一例を上げるとTさんは一人っ子で幼稚園時代はわがまままで女人としてはいじわるのためよく争が多く自分のおもうようにならぬとつねつたりするくらい強い人であったがその後のこと伺うと、

小学校へ入学してからは体質が異常に肥満し、そのためか、幼稚園時代とは変り、すっかり自身を失い、気も弱くなってしまつてゐる。体操もそのような状態なので自分からやろうとせず、やれぬときめてしまふ。学習の方もあまりかんばしくない。こんなようなようすで幼稚園側として心配していたことは解消していたらしい。何がどんなことで変化するかといふこともあるおもしろい例だ。

× × × × × ×

以上、書いてみれば大きな問題でもないようである。けれどもこのような小さなことも、その子どもにとって、また受持ちの私にとっても大事なことで、大きな問題であると思われる。

こうして小学校へ進学してからのようにすると、やっぱり自分反省させられる。

小学校との幼年教育問題も言われているが、なかなかむずかしい。幼稚園教育ということをもとと重要視していただき、幼稚園時代をより進めてほしいと思う。幼稚園では卒業の時に一応ある程度の進歩をみとめて送るが、その後の前進のようすが何か私どもにものたりなく、後退、前進でなく前進でゆくならばと常に考えること。

前号に引き続き幼児の成長の姿をながめてみたが、結果としては、前と同じ、力の弱いものは大して進歩もないくらいの簡単な結果しかでなかつたが、現在小学校三年のこの人たちの成長は何か私どもの今の現場の幼児の教育に考え方をされられる点を与えられ、また刺戟されたことを感謝している。また同時になかなか与えられることのない小学校の先生との御話を伺い、小学校の先生がどんなにか目の前の学習のみにおちいらず、生活、性格の指導を常に心がけていて下さるかということがはつきりわかり、進学した幼児たちも幸だと重ねて感謝する。親心のような安心感を味わつたのである。幼児の成長の姿とともに大きな収穫だったと思うのである。